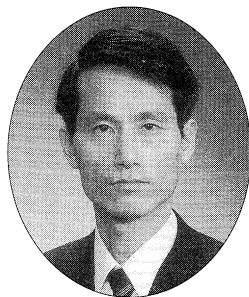


# 『教える』の二つの意味について

岡崎市教育委員  
愛知学泉大学・愛知学泉女子短期大学学長  
**寺部 暁 氏**



## 教育随想



月報

# 岡崎の教育

平成13年6月1日

## 6月号

発行・編集  
岡崎市教育委員会

### 今月の紙面

教育随想	.....	①
岡崎市教育委員		
寺部 暁氏		
この人に聞く	.....	②
鈴木 一雄氏		
羅針盤	.....	②
図工美術科指導員		
太田 幹雄		
ふれあい	.....	③
竜美丘小 倉橋 重夫		
南 中 山崎 彰伯		
特集	.....	④
グランド跡地が語る武士の生活 ～菅生曲輪発掘調査～		
岡崎市の教育予算	.....	⑥
お知らせ	.....	⑧
フォト・ヒストリー	... ⑩	
小中合同学会会 (昭和24年)		
この本を	.....	⑩

学校の先生の仕事は生徒を教えることである。このことに疑いを持つ人はいないだろう。ところで、「教える」という言葉には少なくとも二つの意味がある。

A 教える者が教えられる者を変化させることを意図して、教えられる者に働きかけること

B 教える者が教えられる者に意図的に働きかけて、教えられる者を変化させること

AとBに共通しているのは、「教える」という行為には、教える者が教えられる者を変化させようとする意図があるという点と教える者から教えられる者に対しての働きかけが含まれている点である。

一方相違点は、Aが「教える」ことを「働きかける」こととしているのに対して、Bのほうは「教える」ことを「変化させる」こととしている点である。

つまり、Aでは教師が生徒を変化させる意図をもって、何らかの働きかけを行えば、それは「教えた」ことになるのに対して、Bの意味で「教える」という言葉を用いた場合は、生徒の側に教師の意図した変化が現実におこって、はじめて「教えた」と言えるのである。前者を意図的教育観、後者を成功的教育観というのであるが、どちらの立場で教育するかによって、教育の成果に大きな差がでてくる。

学力低下が社会的に取り上げられている現状を考えたとき、

先生方には大変ご苦勞をおかけすることになりますが、ぜひ後者の成功的教育観に立つて指導に当たっていただけるとありがたいと念願しております。

(てらべ あきら)



# ふるさとシリーズ この人に聞く



## 同級会幹事六十五年

鈴木 一雄 氏

一九三六年（昭和十一年）から毎年開いている同級会。この会は、旧額田郡河合村の秦梨・生平の小学校を卒業した同級生で構成され、生まれが申年と酉年から「河合申西会」と名付けられた。今年で六十五年目を迎えたこの会のリーダーが、鈴木一雄さんである。

鈴木さんは、元三河珪石株式会社社長。三河珪石を一躍、全国的に有名にした方である。珪石は三河あたりでよく採取され、製鉄所では珪石に含まれる珪素が脱酸剤となり、さびない鉄ができるとのこと。特に、

製鉄一億トンを生産するのに約八パーセントも珪素鉄が必要だという。その鈴木さんが、これまでの波乱の人生をしみじみ語ってくださった。「わたしは、昭和十五年から戦争に行きましたが、みんな栄養失調で死んでしまったんです。でも、わたしは小さいころから食べる物もなく、すごい貧乏だったから生き耐えられたのかもしれない。」

鈴木さんのお話から、言葉に言い表せないほどのすさまじさが伝わってくる。

「職場では、生きていくため、不眠不休で遮二無二やっつけてきたんです。そして、珪石が火に強いという利点を生かし、鉄鉱石を溶かす溶鉱炉に使ったんです。ところが、戦後最初は良かったんですが、外国の安くて丈夫な塩基性煉瓦がたくさん入ってくるようになったため、ほんとうに苦労しました。」

それでも、鈴木さんは日々努力を積み重ねた。そして、自動車の部品や工作機械などの精密製造には、珪石が絶対に欠かせないことが分かった。これにより、会社は発展の一途をたどるようになったという。

「わたしの座右の銘は『語らい』なんです。人と人との調和を図り、

いつでもみんなのためを考え、話し合い、行動することをとっても大切にしているんです。」

鈴木さんの人柄が、これまで会社の人たちや同級生から厚い信望を得ているように思われる。

「ここまで同級会が続いているのはみなさんのおかげなんです。一年に一、二度みんなが集まってもつらかったことや楽しかったことを自然に語り合える、それがいいんですよ。これからもずっと続けていきたいらいいなと思っています。」  
手作りの同級会誌には、鈴木さんへの思いやりと温かさが表れている。

氏名 鈴木 かずお  
生年月日 大正九年十一月十八日  
住所 中町七―四―七



## 羅針盤



### 新しい取組みと基礎基本

図工美術科指導員  
太田 幹雄

昨年度の訪問をまとめると、二つの大きな流れを感じた。一つは中学校での鑑賞指導の充実ぶりである。

六月最初に訪問したA中での授業ではゴッホの「ひまわり」が取り上げられていた。この作品を通してゴッホの生き様を感じて欲しいという教師の願いが綿密に計算された板書やカラーコピーを活用した鑑賞カードから伝わった。指導計画には修学旅行での実物の鑑賞も含まれており、行事を取り込んだ指導計画も注目したい。

B中の授業では「ムンクの叫びは何に対して叫んでいるのか」という問いに対して、ディベート形式で生徒が話し合う場を参観した。ムンクの生い立ちや作品の生まれた背景がビデオや一冊にまとめられたリポートなどの資料で分かりやすく解説さ



## 誇らしげな一枚の原稿用紙

竜美丘小学校 倉橋 重夫

「先生、今日も忘れたって。」

「この間の宿題も出してないよ。」

先を争うように次々に報告にやってくる四年生の子供たち。

「それは、先生とA男の間の問題だから、いちいち報告に来なくてもいいよ。」

ある朝の、子供たちと私の会話である。

A男は、マイペースな子だ。何をやるにも、自分のペースをくずさない。宿題もほとんど提出しない。

そんなある日。子供たちは、里芋の種芋を植える体験をした。中には、畑に入ることも、畑の土に触れるこ

とも、種芋をじっくり見ること、初めてな子がいた。A男もそのうちの一人であった。じろじろと、

里芋を見ながら説明を聞くA男。ど

つちを上にして植えるのか、じっくりと考えていた。そして、自分の植えた芋の横に、こそっと一本の棒を立てていたA男。

その日の宿題は、種芋を植えた感想を書いてくることだった。

「いもがおいしく、きずのないようにそだって、マラソン大会でたべたい。」

翌朝、A男は一枚の原稿用紙を誇らしげに提出した。

## ふれあい

### 思いを深めた『生活の記録』

南中学校 山崎 彰伯

「私は二年生のとき大きく成長できたと思います。ありがとうございます。ありがとうございました」これは、昨年担任をしたA子からの年賀状だった。

A子の『生活の記録』には、毎日びっしり自分の思いが詰まっていた。部活のこと、好きな歌手のこと、友達のこと。私も負けまいと自分の思いを書きつづった。



学級の雰囲気壊れかけ、私が思い悩んでいた時、A子は「先生がどんなに立派な人でも、クラスのメンバーがつくる雰囲気は止められないでしょう。自分を責めないでください」と書いてきた。この言葉に私の心はどれだけ軽くなったことか。生徒を変えよう変えようと力が入りすぎていた自分に気がついた。そして、「私たちの力で七組を変えてみせます。先生にも、最後は七組でよかったです。先生にも、最後は七組でよかったです。先生にも、最後は七組でよかったです。先生にも、最後は七組でよかったです。」

A子の卒業文集に「山崎先生『生活の記録』は一生とっておきます」と書いてあった。A子の思いや成長の足跡、それに私の思いもたくさん詰まった『生活の記録』を、笑顔で読み返すA子の姿が、目に浮かぶ。

れていた。印象的なこの作品から様な想いを語り合いながら、作品に込められた謎に生徒が迫っていく姿が印象に残った。

小学校では、「総合的な学習の時間」の中に位置づけられた作品制作を取り上げた授業が展開されていた。

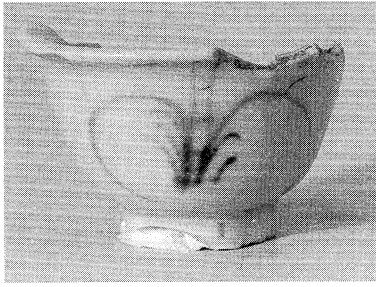
C小での授業では、学区を流れる川をテーマに、児童がそれぞれグループに分かれ活動していた。七つのグループにはそれぞれ名前があり、児童の興味関心によって編成がなされていた。

調査をした結果を絵や図にして分かりやすく説明したり、表やグラフにまとめるグループもあった。

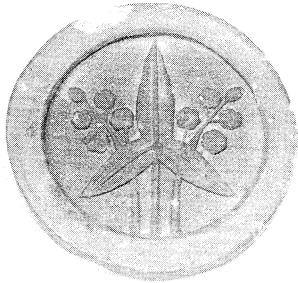
このように、小中いずれにしろ、新しい時代の要請を真摯に受け止める、授業の在り方を模索する先生方の熱意に敬意を表したい。

また、訪問して子どもたちの表情が生きて輝いていた授業は、試作品を制作し、生徒のつまづきを予想することや、材料の準備、予備の材料の確保、不測の事態への対応方法、安全面への配慮などの細かな指導計画がなされていた。目先にとらわれず、基礎基本を大切にしなければならぬのは、これからも不変的なことである。

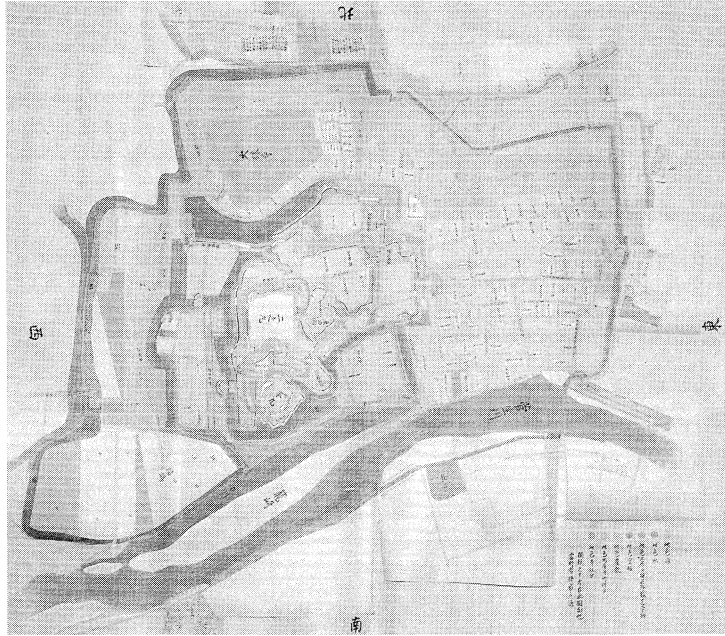
# グラント跡地が語る武士の生活 くろわ 菅生曲輪発掘調査



▲出土品（初期伊万里盃）



▲出土品（水野家時代の軒丸瓦）



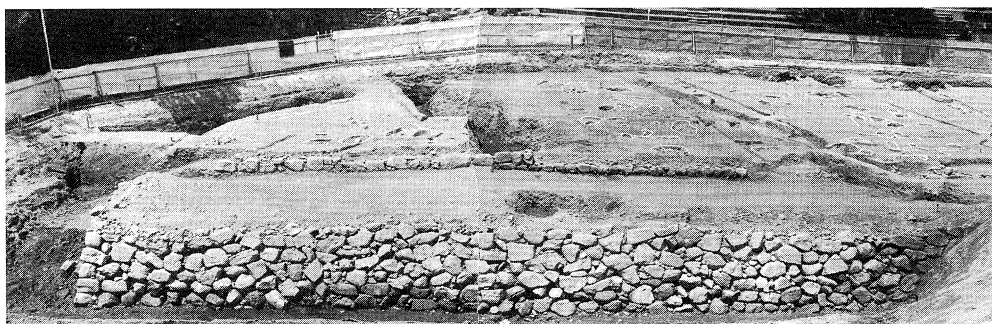
▲発掘に際し参考にした岡崎城絵図『岡崎城一城と城主の歴史』より

岡崎公園グラント跡地には、江戸時代全期を通じて、岡崎藩の武家屋敷や侍長屋が存在した。現在に残る岡崎城絵図には、「菅生曲輪」と記されている。十か月に及ぶ発掘調査が今年三月に終了し、ほぼ絵図どおりの遺構や中下級武士たちの生活をうかがわせる数多くの品々が出土した。

遺構からは、グラント中央を南北に分ける堀やそれを東西に仕切る土橋が確認されている。堀の南北には屋敷地があり、江戸時代後期には、北側に侍長屋、南側に二軒分の屋敷地があったことが推定される。屋敷地からは、瓦組井戸三基、石組井戸二基が見つかり、特に、瓦組井戸は、上層は井戸専用で作られた瓦を組んで井枠とし、下層は木材を桶組みして作られていた。北屋敷地からは、石組みの溝が堀へつながり、生活廃水が堀に流されていたことが分かる。発掘された石垣をよく観察すると、下層二段は石が水平に規則正しく並び、上層は不規則に並ぶことから、近世までにかんりの修理を受けたことが分かる。また、石には刻印が施されたものも発見されており、江戸城のような天下普請ではない城としては珍しいことである。

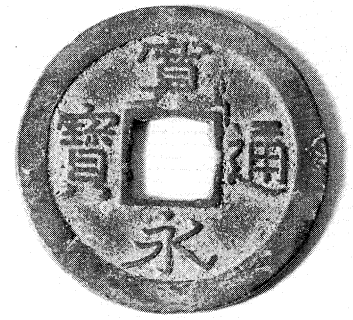
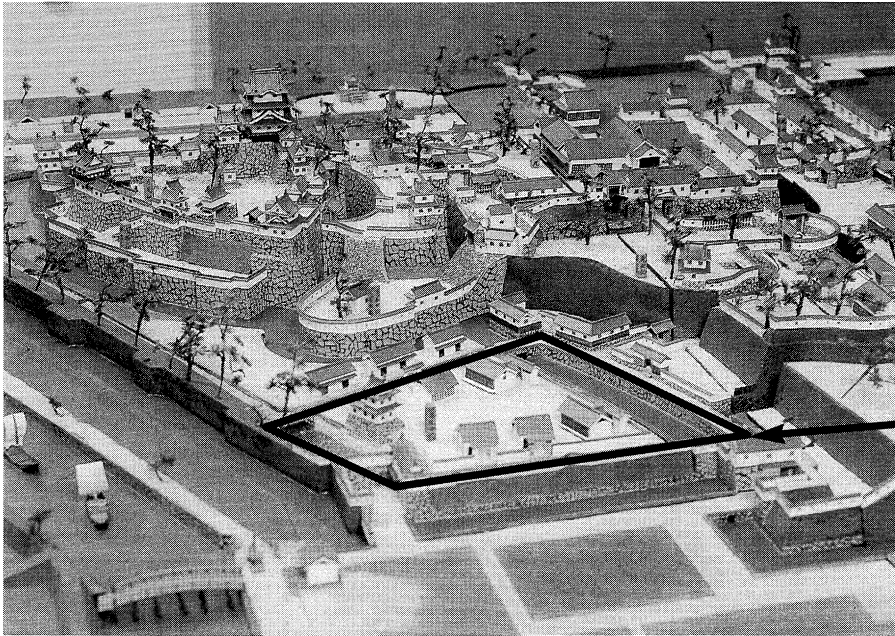
今回の調査で一番多く出土したものは、瓦であった。中でも家紋入りの瓦は特に目を引き、その多くが水野家時代（一六四五～一七六二）と後本多家時代（一七六九～一八七一）のものであった。出土した生活用品の中には、庶民向けの安価な碗に混じり、初期伊万里盃などの当時としては製作技術が確立されていない高級品もあった。中下級武士の屋敷が集まっている場所からの出土は驚きに値する。また、武士たちが子供の成長を願い、出産時に出てきた胎盤を素焼きの皿に入れて屋敷地内に埋めた胞衣皿も出土している。

平成十四年三月に、岡崎市美術館にて岡崎城にちなんだ品々の展示が予定されている。



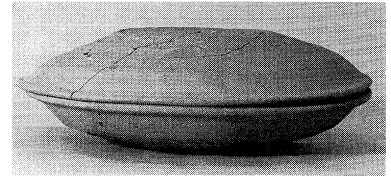
▶グラント発掘の様子  
(平成12年8月)

\*「曲輪」は堀と堀との間に設けた空き地



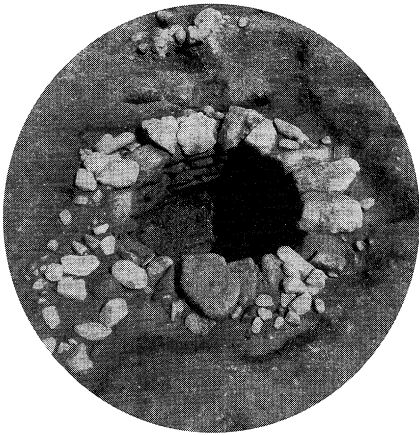
▲出土品（近世の古銭）

菅生曲輪



▲出土品（胞衣皿）

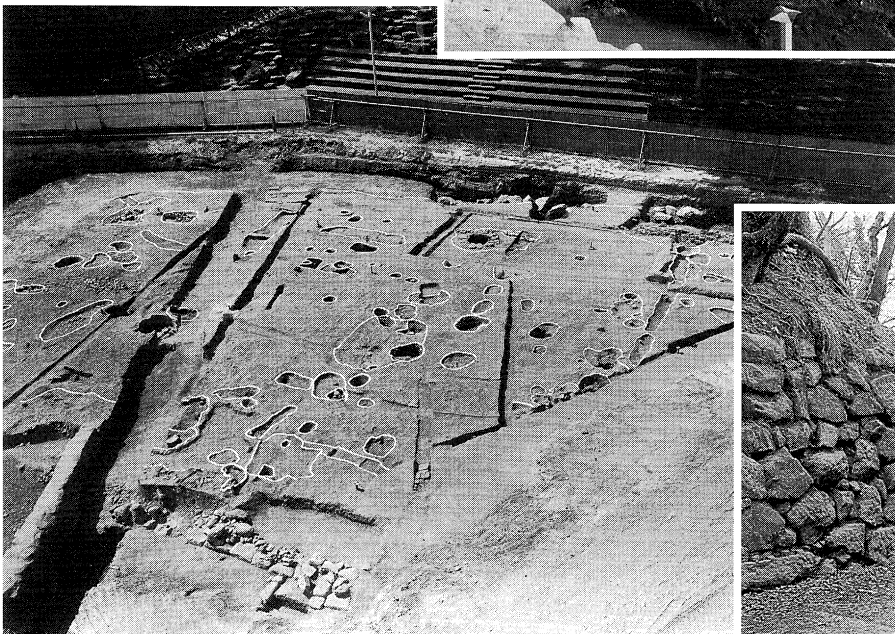
▲岡崎城立体模型に見る菅生曲輪『岡崎城一城と城主の歴史』より



▲石組井戸跡



▲堀を東西に仕切る土橋  
(平成13年2月)

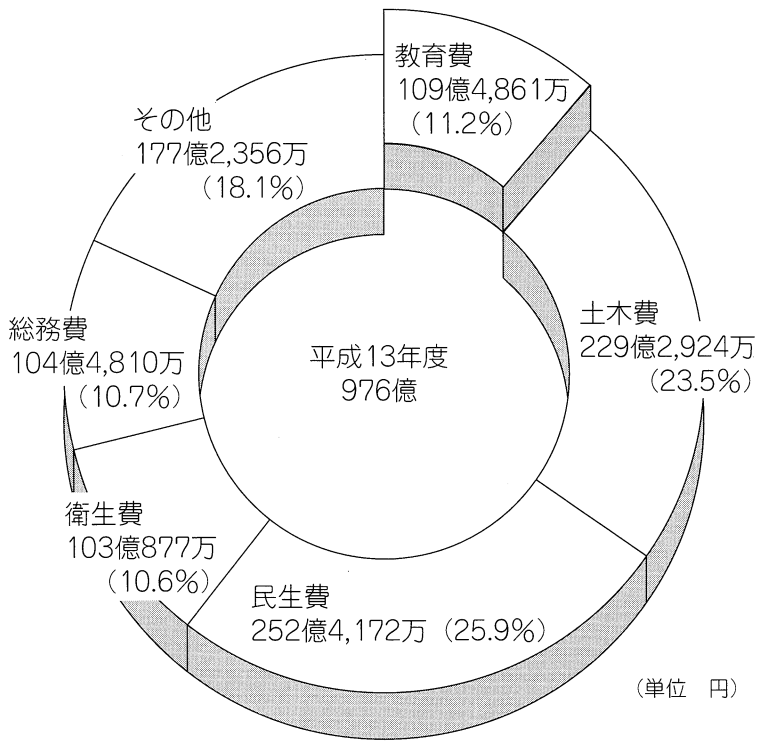


▲発掘区全景（平成12年8月）



▲菅生曲輪から三の丸に向かう切り通し

### 〈一般会計予算〉

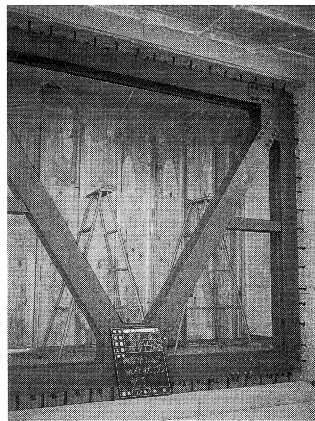


文化の薫る  
人間性豊かなまちづくり

# 平成十三年度 岡崎市の教育予算

#### ◆平成13年度の特徴◆

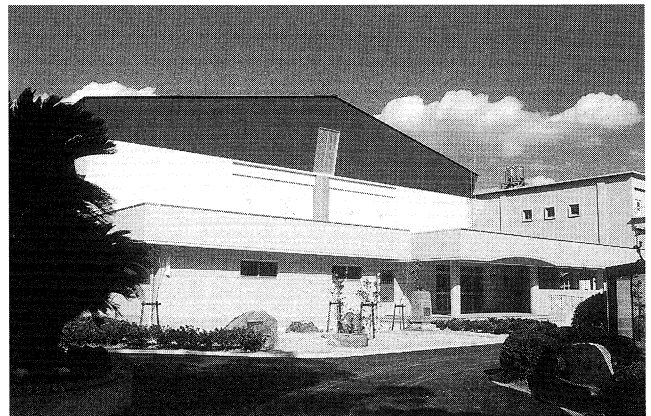
小中学校施設の設備	
プール建設	小学校 一校
校舎耐震補強	小学校 二校
造 成	中学校 一校
校舎増改築	小学校 一校
校舎建設	中学校 一校
園舎建設	幼稚園 一園



▲校舎耐震補強  
平成12年度終了 (甲山中学校)

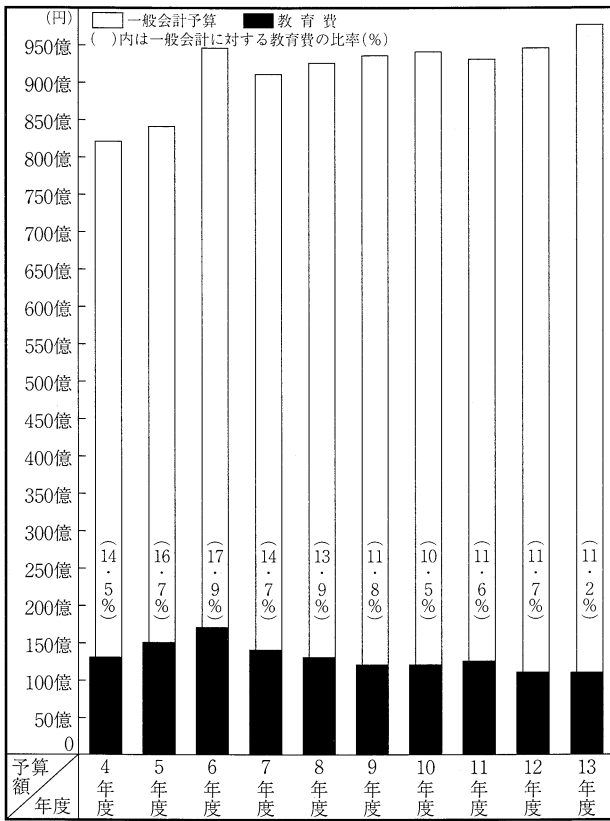


▲屋内運動場 平成12年度完成 (愛宕小学校)

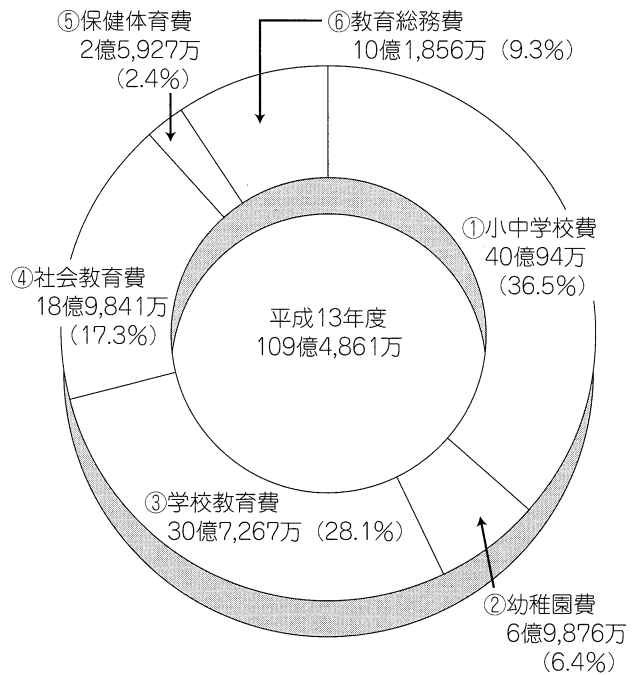


▲屋内運動場 平成12年度完成 (連尺小学校)

◆ 一般会計予算と教育費の推移

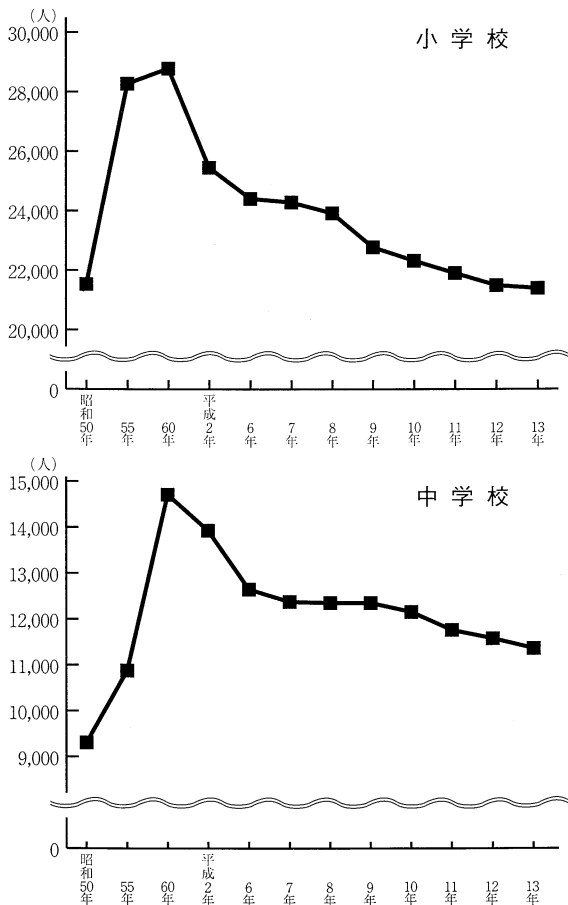


〈教育費の内訳〉



(単位 円)

◆ 児童、生徒数の推移 (数字は毎年5月1日現在)



◆ あらまし ◆

- ①小中学校費
  - ・小学校パソコン教室整備事業
  - ・プール建設事業 (大樹寺小)
  - ・校舎耐震補強 (矢作南小, 矢作西小)
  - ・校舎増改築 (城南小)
  - ・校舎建設・造成 (常磐中)
- ②幼稚園費
  - ・園舎増改築事業 (広幡幼)
- ③学校教育費
  - ・行事開催事業委託及び指導研修
  - ・教育の振興, 研究助成
  - ・児童生徒の健康保持
  - ・小中学校各種スポーツ大会開催
- ④社会教育費
  - ・岡崎市民芸術文化行事開催事業
  - ・図書館の管理運営
  - ・視聴覚ライブラリーの管理運営
  - ・少年自然の家の管理運営
  - ・西大平藩陣屋跡整備事業
  - ・埋蔵文化財調査事業 (宇頭地区)
- ⑤保健体育費
  - ・体育振興事業
- ⑥教育総務費
  - ・私立高校授業料補助金
  - ・岡崎育英会学生寮運営費補助金
  - ・私立幼稚園就園奨励費補助金

# お知らせ

## ハートピア岡崎だより

### 自然の中で

ハートピア岡崎では、豊かな自然や整った施設、設備など恵まれた環境を生かした体験的活動を大事にしている。植物を育てたり、物をつくったりする活動を通して、心が安定し、友達との関わりがもてるようになるからである。

### ●主な体験的活動

#### 《一学期》

- ・野菜の苗の植えつけ
- ・ジャガイモの収穫とカレーライスパーティー
- ・工作教室（子ども美博）
- ・バーベキューの会
- ・サマーキャンプに参加

#### 《二学期》

- ・陶芸教室（子ども美博）
- ・草花の苗の植え替え



- ・スポーツの会（バタゴルフ）
- ・社会見学

- ・サツマイモの収穫
- ・奉仕活動（池周辺のごみ集め）
- ・やきいもの会
- ・年越しの会

#### 《三学期》

- ・節分豆まき
- ・絵画教室（子ども美博）
- ・スポーツの会（卓球）
- ・お別れの会（会食）

### ●散歩、大好き

ハートピア岡崎から南の方

へ山を登っていくとほどなく猿田池がある。その眼下には衣文町の田畑や家並が広がり、向こうの山々に続いていく。足元の土手ではその季節になるとわらび採りができる。子供たちは散歩が大好きである。心が開放されるからであろう。野鳥や野草の観察や

つくし採り、わらび採り、栗拾いなどができる。散歩の道中では「どんなテレビを見てるの」「大人になったらどんな仕事かしたいの」など心を開いて話ができる。

### ●釣り、そして野鳥観察

中学三年A君は釣りに凝っていた。ルアーによるブラックバスの釣りである。彼は釣りをするためにハートピア岡崎に通った。ハートピア岡崎に来るとすぐに猿田池に行った。毎日のように池に通った。

三か月ほど経つと担当の指導員と一緒に卓球をしたり、草花の世話をしたりするようになった。また三か月ほど経って、中間テストを学校で受けることをきっかけに彼は学校復帰した。

中学一年B君は、転校してきた中学校でいろいろつらいことがあって、学校に行けなくなった。喘息がひどく体力も気力もかなり衰弱しているようであった。彼は指導員と相談して野鳥の観察をするこ

とにした。散歩したり自転車に乗ったりして野鳥観察に行き、名前を調べて黒板に記録した。鳥の名前が増えていくに連れて、彼の体と心が回復していった。

### 少年自然の家だより

#### ▽盛会だったグリーンハイク

五月十二日（土）、福岡中学校千賀校長を講師に迎えて、すぶちの森の植物を勉強する、第十二回すぶちグリーンハイクを実施した。



参加者は九家族二十七名、例年になく盛会で初夏のすがすがしい空気を吸いながら、楽しい一日を過ごした。

昼食時に行った、採りたての山菜の天ぷらは特に好評だった。また、参加した子供たちには、落ち葉スキーやアスレチックを思う存分楽しんでもらった。講師の千賀先生は、

植物についての第一人者で、懇切丁寧な説明は、当施設を利用する先生方に大変参考になるのではないかと思う。来年度も多数の参加申込を期待している。

#### ▽自然の家の用地拡張計画

ほたるの広場は、大規模校のファイヤーには狭すぎるため、かねてより用地拡張計画を進めてきたが、この度土地開発公社による買収がほぼ完了し、来年度には土地購入と実施設計の予算を計上していくつもりである。敷地の北の農地及び山林等約一万平方メートルで、そのうちファイヤー場に約二二〇〇平方メートル、残りを自然観察用地とし、現在のファイヤー場も多目的広場として残す予定である。

#### ▽ゲンジボタルの灯が舞う

河合中学校が四月二十四日に、創作棟北の水路に蛍の幼虫三百匹を放流してくれた。順調にゆけば今月上旬に成虫となり、蛍鑑賞ができる予定である。なお河合地区での最盛期は中旬で、六月いっぱい



●学校・学級の規模（市内平均）

	小学校	中学校
一校当たり 児童・生徒数	509人	633人
一校当たり 学級数	17学級	18学級
一学級当たり 児童・生徒数	30人	34人

◆**感性を育む心の教育**  
—おかあさんといっしょに聴こう—  
感性を育む教育の推進を目的に、芸術鑑賞会を企画した。本年度は、チェコのオストラヴァ青少年少女合唱団を招き、小学校一、二年生の親子を対象に、次の日程でコンサートを実施する。

・時 八月二日（木）  
午前・午後二回公演  
・場所 岡崎市民会館

◆**小中学校のようす**  
平成十三年度岡崎市内の小中学校の概要がまとまった。五月一日現在の学校や学級の数、児童生徒と教職員の数を表に示した。

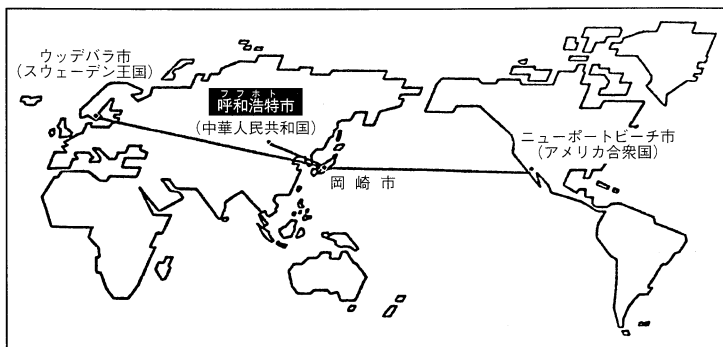
●学年別児童・生徒数（人）

	小 学 校						中 学 校		
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
男	1,856	1,792	1,771	1,798	1,814	1,831	1,867	1,960	1,964
女	1,796	1,782	1,708	1,733	1,724	1,790	1,842	1,929	1,833
計	3,652	3,574	3,479	3,531	3,538	3,621	3,709	3,889	3,797

●児童・生徒・教職員数

区 分	学校数 (校)	学 級 〈特殊〉 (学級)	児童・生徒 (人)			校長・教職員(人) (非常勤講師を含む)			養護教員 (人)	事務職員 (人)		栄養職員 (人)
			男	女	計	男	女	計	県	市	県	
小学校	42	708<50>	10,862	10,533	21,395	406	623	1,029	42	43	0	8
中学校	18	332<25>	5,791	5,604	11,395	413	256	669	21	26	7	2
合計	60	1,040<75>	16,653	16,137	32,790	819	879	1,698	63	69	7	10
昨年度合計	60	1,046<74>	16,814	16,293	33,107	817	881	1,698	62	68	9	9

▶岡崎市の友好・姉妹都市



◆**親善訪問使節団の派遣**  
岡崎市は、友好を深めることを目的に呼和浩特（フフホト）市へ中学生を派遣して、今年で十四回目となる。結団式が五月七日に行われ、六月十八日から九日間の日程で、訪問する。

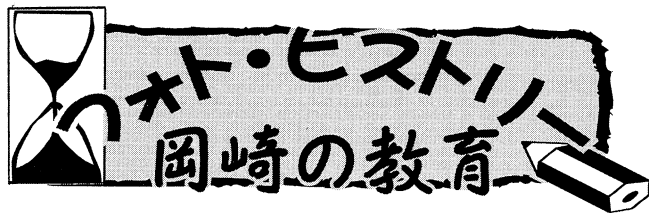
- ・呼和浩特市長表敬訪問
- ・格根塔拉草原でのパオ泊
- ・友好バスケット試合
- ・ホームビジット

▶昨年度の使節団  
—ゴゲンダラ草原にて—



〈生徒〉	美川中	原田 悠生
	南中	原田真由美
	小椋 淳平	
	小塚 昌代	
	喜多下悠貴	
	猪飼美穂子	
	渡邊 権人	
	鈴木 里奈	
	中尾 康彦	
	鈴木美由紀	
	長岡岳太郎	
	萩原 宏美	
	大井 正之	
	鈴木 純子	
〈団長〉	新香山中	
〈副団長〉	緑丘小	

・カ  
ツ  
ト  
東  
海  
中  
南  
野  
薫



# 小中合同学芸会 (昭和24年)



写真提供 常磐中学校

昭和二十二年に教育基本法及び学校教育法が公布され、新学制が始まった。それに伴って、額田郡常磐村立常磐中学校が常磐小学校の校舎内に開校した。

中学校と小学校は、共同生活のために、様々な行事を合同で行った。写真は、その中の一つで、昭和二十四年に開かれた合同学芸会の様子である。小学生が劇を食い入るように見ており、演技をしている中学生の顔も輝いている。

現在、岡崎市内のいくつかの学校が、小中連携の教育について研究を進めている。この写真に見られる子供たちの表情に、連携教育の意義の一端を感じることが出来るだろう。

## この本を

- \*学力があぶない 大野晋・上野健爾  
岩波新書 ￥740
- \*アドラー博士のキレる子どもにしない法  
星 一郎  
サンマーク出版 ￥1200
- \*十二番目の天使 オグ・マンディーノ  
求龍堂 ￥1200
- \*幸福の原理 中野 孝次  
大和書房 ￥1500

\*M/世界の、憂鬱な先端 吉岡 忍  
文芸春秋 ￥2000

少年犯罪は、子供がその主役ということに、やりきれなさが残る。本書は徹底的な取材で、宮崎勤事件の真実に迫っていくノンフィクションである。この作品を完成させるに十年の歳月をかけたというだけあって、深さのある作品となつて、読者に迫ってくる。後半部は、神戸の少年Aを取り上げている。宮崎勤に比べ淡々としているとはいえ、新興住宅街を丹念に歩き、そこに漂う独特な環境に取り囲まれた人間の姿をえぐりだしている。

屋外で、子供たちの遊ぶ姿が以前より多く見られるようになってきたという。ゲーム離れが進んできたことなのか。

昔、物がなほころ、瓦や空き缶を集め、みんなでルールを決めて遊んだもの。今、物が豊かな時代だからこそ、昔の遊びを伝えたいものだ。

## シオ スア

静かに雨が降り続く梅雨。子供たちにとっては、元気に外で遊ぶことができないうっとうしい季節であるが、稲作にとっては恵みの雨でもある。こんな時こそ、読書のまたとないチャンス。好きな本を読み聞かせて、子供たちの心に、恵みの雨を降らせたい。

紫陽花あじさいが雨に濡れながら美しく咲いている。紫陽花は、古く奈良時代に作られた園芸品種で、青い花が固まって咲くことから名づけられたという。

その葉の先に、カタツムリを見つけて喜ぶ子供たち。雨に負けない笑顔が輝いている。

菅生曲輪の出土品は、当時の武士の生活を物語り、更なる想像をかきたてる。胞衣皿えなさらに子供たちの成長を願った武士たち。彼らは、子供たちにどんな教育を施したであろうか。十四歳で元服を迎える時代、厳しい教えであったことが想像できる。